



平成 30 年度土木学会東北支部技術研究発表会に参加しました(2019/3/2)

場所：東北大学川内キャンパス（宮城県仙台市）

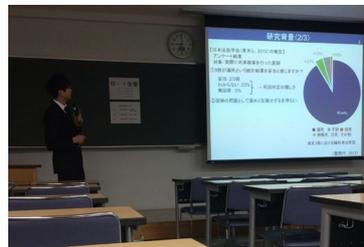
参加者：佐藤翔輔准教授，門廻充侍助教，WANCHAI PAKOKSUNG 研究員，大竹拓郎(M2)，馬場亮太(M2)，倉本和俊(M1)，新家杏奈(M1)，門倉七海(B4)，芹川智紀(B4)，柗谷亮太(B4)

3月3日に、東北大学川内キャンパス（宮城県仙台市）で土木学会東北支部が「土木学会東北支部技術研究発表会」が開催されました。同会は土木工学の進歩および土木技術の向上を図り、学術文化を発展させるために毎年度開催され、研究発表による情報共有や交流が行われています。本年度は発表者として以下のメンバーが参加しました。発表者の講演内容は以下の通りです。

- 佐藤翔輔：津波避難における高速道路の活用実態に関する研究
- 門廻充侍：東日本大震災における宮城県での死因体系化の試み
- WANCHAI PAKOKSUNG：二層流モデルによるパル湾内における2018年スラウェシ島津波の再現
- 大竹拓郎：船舶海上ネットワークを利用した津波リスク評価の試み
- 馬場亮太：沿岸部の名取市閑上地区における来訪者の津波避難行動に関する調査
- 倉本和俊：2018年スラウェシ島地震・地すべりによるパル湾での津波の波源推定
- 新家杏奈：東日本大震災発生時の津波避難行動に及ぼす情報受容の役割—宮城県気仙沼市を例に—
- 門倉七海：仙台市沿岸部の震災復興メモリアル施設が来訪者の防災意識・知識へ及ぼす影響
- 芹川智紀：想定浸水域内外での東日本大震災における避難実態とリスク認知
- 柗谷亮太：タイ・プラトーン島を対象とした2004年インド洋大津波による土砂移動の解析



佐藤翔輔准教授



門廻充侍助教



馬場亮太 (M2)



新家杏奈(M1)



門倉七海(B4)

(文責：芹川)